

岡山県の地震

令和2年(2020年)3月

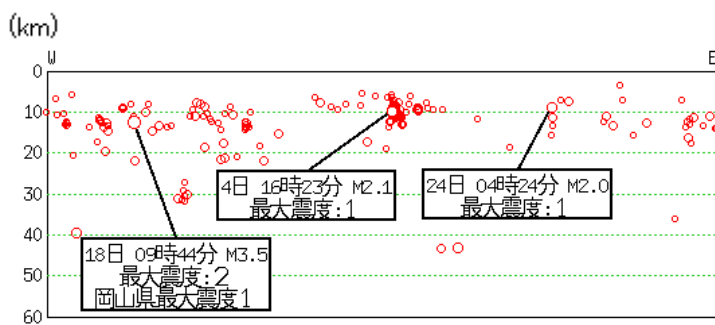
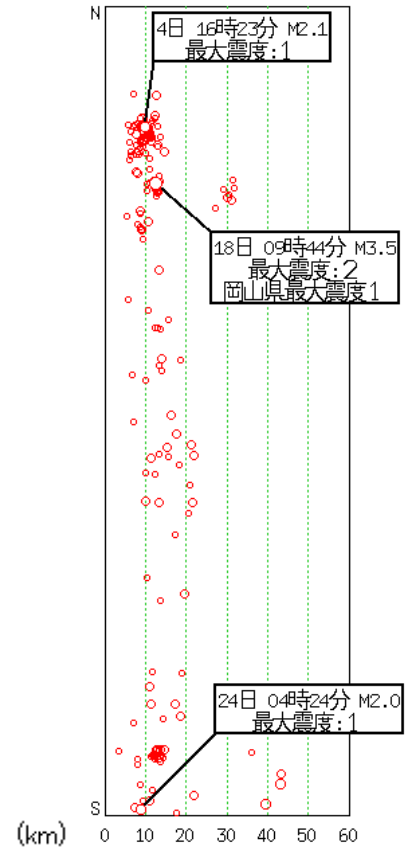
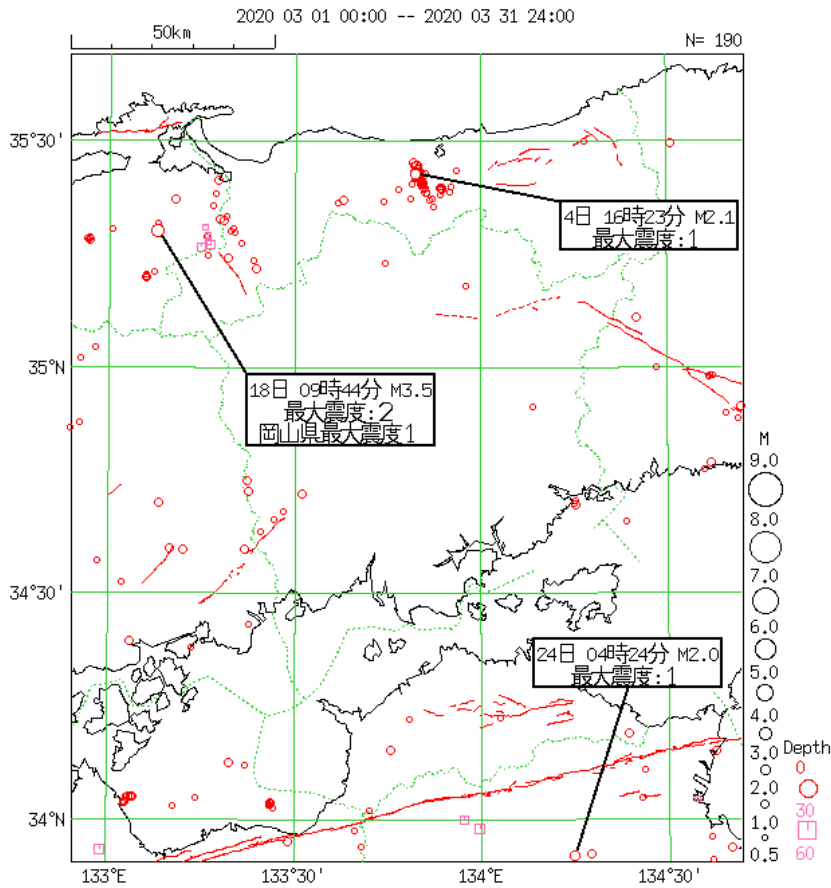
目 次

○岡山県及びその周辺の地震活動（3月）	
震央分布図及び断面図	… 1
概況	… 1
岡山県において震度1以上を観測した地震の表	… 2
岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図	… 3
○地震防災メモ No.171	
緊急地震速報の発表の迅速化	… 4

- 「岡山県の地震」は、月1回発行し、岡山県及びその周辺の地震活動をお知らせするとともに、適宜、社会的関心の高い地震について解説します。また、「地震防災メモ」により地震、津波に対する防災知識の普及等に努め、皆様のお役に立つことを目的としています。
- この資料の震源要素、震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
- 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

岡山県及びその周辺の地震活動(3月)

震央分布図及び断面図



左上 震央分布図 (地図内の細線は活断層を表しています。)

右上 南北断面図

左下 東西断面図

図中の注釈 (吹き出し) は、震度1以上を観測した地震について最大震度などを表しています。

概況

3月の概況

- ・上図の範囲内で3月に震度1以上の揺れが観測された地震は3回 (前月:2回) でした。
- ・岡山県で震度1以上の揺れが観測された地震は3月中に3回 (前月:0回) あり、そのうち震央が上図範囲内の地震は1回、範囲外の地震は2回でした。

岡山県において震度1以上を観測した地震の表(3月)

2020年03月09日04時28分	豊後水道	33° 19.3' N 132° 01.7' E	59km	M4.7
----- 地点震度 -----				
岡山県	震度 1: 真庭市下方*, 倉敷市下津井*, 倉敷市児島小川町*, 倉敷市船穂町*, 玉野市宇野*, 里庄町里見*, 矢掛町矢掛*, 瀬戸内市長船町*, 浅口市金光町*, 岡山南区片岡*			

2020年03月13日17時32分	島根県西部	34° 40.0' N 131° 58.5' E	11km	M3.8
----- 地点震度 -----				
岡山県	震度 1: 新見市唐松*, 真庭市禾津*, 里庄町里見*			

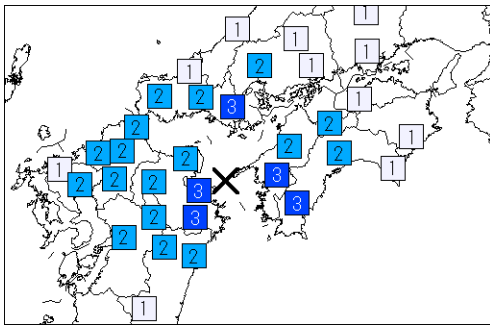
2020年03月18日09時44分	島根県東部	35° 17.9' N 133° 07.8' E	12km	M3.5
----- 地点震度 -----				
岡山県	震度 1: 真庭市下方*, 真庭市禾津*			

- 注) 1 内容は暫定値であり、後日再調査のうえ、修正されることがあります。
なお、地震データの確定値は『気象庁地震・火山月報(カタログ編)』に掲載されます。
- 2 地名の後に*印を付したものは、岡山県又は防災科学技術研究所の震度観測点です。
なお、震度は気象庁震度階級表によるものです。

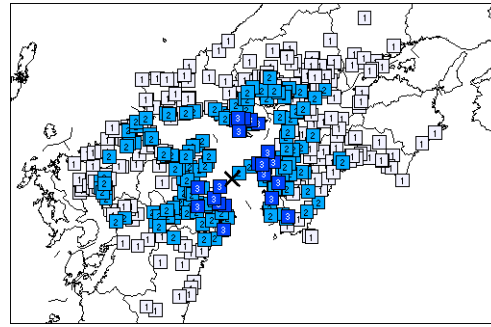
岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図(3月)

2020年03月09日04時28分 豊後水道の地震

各地域の震度分布

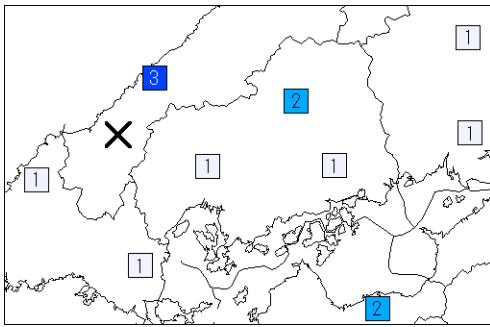


岡山県及び周辺観測点の震度分布

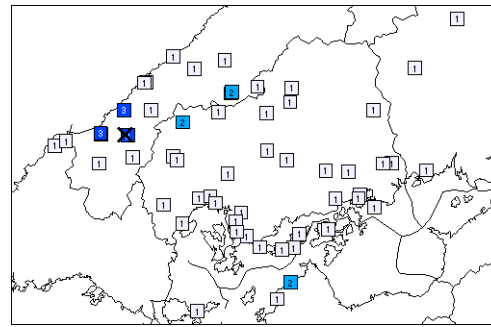


2020年03月13日17時32分 島根県西部の地震

各地域の震度分布

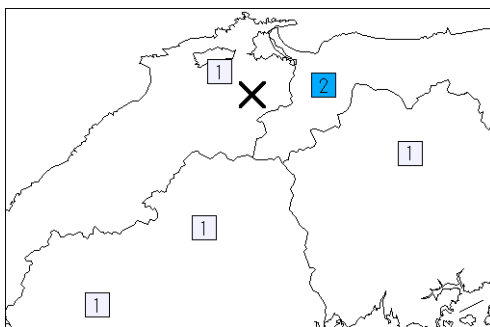


岡山県及び周辺観測点の震度分布

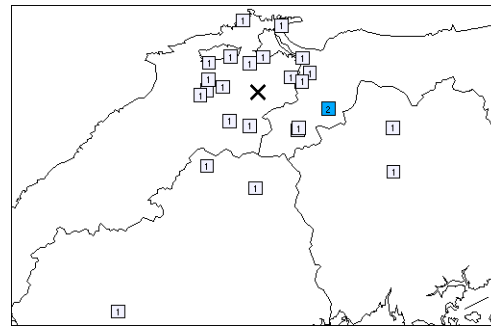


2020年03月18日09時44分 島根県東部の地震

各地域の震度分布



岡山県及び周辺観測点の震度分布



緊急地震速報の発表の迅速化

気象庁は、海域で発生する地震に対する緊急地震速報の発表の迅速化を図るため、国立研究開発法人防災科学技術研究所（以下、防災科研）と連携して、沖合に設置された海底地震計の観測データを活用するための技術開発を進めてきました。

その成果として、令和元年6月27日より、防災科研が運用している「地震・津波観測監視システム（DONET）」及び「日本海溝海底地震津波観測網（S-net）」（日本海溝より陸側の観測点）の観測データを活用した緊急地震速報の発表を開始しています。

今般、S-netの観測点のうち、日本海溝より東側に設置された観測点（図1の⑥）についても観測データを活用する準備が整ったことに伴い、令和2年3月24日12時から、これらの観測点データを加えた緊急地震速報の運用を開始しています。これにより、S-net全体の観測データを活用することとなりました。

今般の活用開始により、日本海溝より東側で発生する地震について、緊急地震速報（警報）の発表が、現在より最大で10秒程度（図2）、S-netの観測データの活用を開始する前（令和元年6月以前）と比較して、最大で30秒程度早まることが期待されます（図3）。

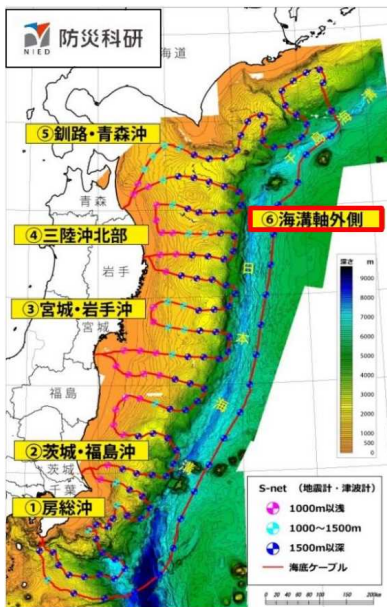


図1：日本海溝海底地震津波観測網（S-net）の観測点分布図

「⑥海溝軸外側」の観測点を、今回新たに緊急地震速報の発表に活用する（①～⑤の観測点は、令和元年6月27日より緊急地震速報の発表に活用）

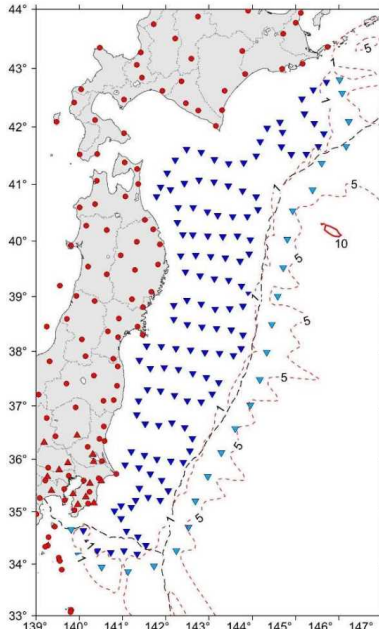


図2：⑥海溝軸外側の観測データを新たに活用することによる迅速化の効果

図中の値は、その地点で地震が発生した場合に、新たにS-net（▼：⑥）を活用すると緊急地震速報（警報）の発表が、現在と比較してどの程度早まるかを計算した理論上の最大値（秒）を示す。

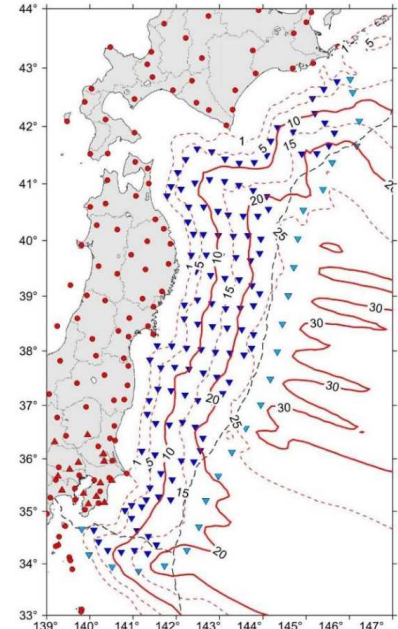


図3：海溝軸外側を含むS-net観測データの活用による迅速化の効果

図中の値は、その地点で地震が発生した場合に、S-net（▼：①～⑤、▼：⑥）を活用すると緊急地震速報（警報）の発表が、S-net全体の観測データの活用を開始する前と比較してどの程度早まるかを計算した理論上の最大値（秒）を示す。

出典

「緊急地震速報に活用する海底地震観測点の追加について」気象庁ホームページ
https://www.jma.go.jp/jma/press/2003/19a/20200319_ewwatsuyouS6.html